

そよかぜだより

第64号
発行 2007.9.16
毎月1回発行
NPO法人
障害者団体連絡会
そよかぜ

http://www.mmjp.or.jp/soyokaze/
連絡先
ひばり園 578-0855
FAX 578-0466
くれよん 578-2575
つくしの家 578-0855
あおぞら 570-6110
(お問い合わせ)
資源回収時のご連絡は
「ひばり園」へ

資源回収・取引会社が替わりました

古紙単価も大幅アップ

資源回収で集めている古新聞、古雑誌、ダンボールなどを引き取ってもらう会社が替わりました。前の会社はもう

最近では私たちのような小口の団体とも取引をしてくれるようになりました。

この会社のよいところは、

長い取引でしたが、いろいろ事情があつて取引を止めなければならぬことは前から分かっていました。そこで数ヶ月前から別の会社を探していましたが、よい会社が見つかったので八月から納品を始めました。

新しく取引をすることになった会社は、全国に60数ヶ所の営業所を持っていて業界ではトップレベルの大手企業です。3年前に西多摩営業所が羽村に近いところにできました。初めは毎日数トンの古紙が出る大きなスーパーや企業と取引をしていましたが、

前の会社と比べてケタ違いに大量の古紙を取り扱っていて、王子製紙や日本製紙などの製紙会社に直納していることです。間に中間業者が入らないので私たちが引き取つてくれる単価が高いのです。前の会社は小規模だったので製紙会社に行くまでに中間業者がいくつも入つて末端単価は安くなつていました。会社が替わつて私たちが受け取る売り上げ金は前より倍増しました。このページの右下にある資源回収のお知らせを見てくださいます。先月の売り上げ金額が大きく増えていることがわかる

と思います。倍増したといってもそれは会社からもらう代金のことで、市役所からの補助金はいままで通りですから、資源回収の収入全部がいきなり倍増したわけではありません。前の会社が他より単価が安いことは、以前からよく分かっていました。それでも長いあいだ取引を続けていたのはなんといい場所が近いことでした。第三日曜日の回収は何人かのボランティアさんに手伝ってもらいながら軽トラックなどの小さな車で何回も運びます。距離が遠いと回収の効率が悪くなるのでお金に換えられないということに続けていました。こんどの会社は前とほとんど同じ距離でしかも単価が高いので、私たちにとっては願つたりかなつたりところが見つかったことになりました。

会福祉法人化と新施設建設のために少しでも多くの自己資金が必要です。単価が上がったことをはげみにして、良い施設を造るためにさらに回収量を増やさなければなりません。みなさま方のご協力をよろしくお願いいたします。

ご協力ありがとうございました。 8月の募金 49,492円

(順不同) 19年4月～19年8月の合計 217,186円

- | | | | | | |
|--------|---|---------|---|----------|---|
| 宮本 佐一 | 様 | 藤野 和子 | 様 | とまと美容室 | 様 |
| 宮本 文江 | 様 | 井上 誠一 | 様 | 森田 勝 | 様 |
| 加部 妙子 | 様 | 佐藤 佐夫 | 様 | 大野 元雄 | 様 |
| 帯刀 進 | 様 | 宇津木 牧夫 | 様 | 清水 賢 | 様 |
| 山下 暉枝 | 様 | 濱野 岬 | 様 | 清水 知子 | 様 |
| 高橋 典子 | 様 | 加藤 夏花 | 様 | 山田 隆章 | 様 |
| 袴田 実 | 様 | 加藤 春花 | 様 | 関村 理 | 様 |
| 天満 喜代子 | 様 | 加藤 和輝 | 様 | 関村 英希 | 様 |
| 山崎 六雄 | 様 | 渡辺 時三 | 様 | 吉野 満里子 | 様 |
| 柴田 佳代子 | 様 | 斉藤 忠 | 様 | 三島 稔 | 様 |
| 榎本 正代 | 様 | 清水 キヨ子 | 様 | 長谷川 キヌ子 | 様 |
| 松岡 竹子 | 様 | 尾又 恭子 | 様 | 関谷 孝子 | 様 |
| 角野 克子 | 様 | 角野 進 | 様 | 土屋 三枝子 | 様 |
| 国本 昭治 | 様 | 田村 由親子 | 様 | 本間 正彦 | 様 |
| エイ・アイ | 様 | 田村 千佳 | 様 | 田中 稔 | 様 |
| 永岡 智恵子 | 様 | 下田 コウ | 様 | 山影 幸子 | 様 |
| 平野 喜子 | 様 | 渡辺 四郎 | 様 | 田中 明子 | 様 |
| 橋本 亜紀子 | 様 | ア-サンカワノ | 様 | ア-バンデックス | 様 |
| 桜沢 喜作 | 様 | 阿部 郁子 | 様 | 鰻沢 道子 | 様 |
| 北野 浩美 | 様 | 村野 理子 | 様 | 平岡 知子 | 様 |
| 白井 信行 | 様 | 小沢 達子 | 様 | 関谷 達夫 | 様 |
| 川崎 利男 | 様 | 小林 有子 | 様 | 関谷 和子 | 様 |

匿名様(9,457円)

ご連絡は、ひばり園へ
羽村市五ノ神2-6-7
042-578-0855

くれよん8月の売上げ
732,090円でした。

羽村市内の小学校と中学校の生徒のみなさんが、各学校単位でプルトップ収集にご協力して下さっています。ありがとうございます。

NPO法人 そよかぜの

《資源回収》に

ご協力をお願いします
新聞、雑誌、ダンボール

(ボロは扱っていません)

この収益は「つくしの家」の運営資金などになります。
8月は31,310tでした。金額は589,061円となりました。
みなさまのご協力ありがとうございました。

10月は第3日曜日21日です。

大雨の場合は、次週の日曜日に順延します。

「地域生活」という美しい言葉はありますが 「快適な私生活」は重い課題

記録的猛暑の中でクーラーのない部屋に耐える人も

今年の夏は本当に暑い夏でした。各地で記録的な猛暑でした。その暑い最中、ひばり園は幸か不幸か夏休みでした。幸か不幸かといったのは、実はひばり園の利用者の中にはクーラーのない部屋で暮らしている人もいるからです。ひばり園に出てくれば、作業室はもちろん冷房されています。しかし夏休みで自室にいて、あの暑さをどうやってしのいだのでしょうか。

最高気温が熊谷で40・9度の新記録でしたが、そんな日は羽村でも40度近くはあったはず。体温をはるかに超えた気温です。家の中にも熱中症で死亡したお年寄りがあったというニュースもありました。どの家庭でも、もし家にいた場合はクーラーをフル回転して過ごされたことでしょうか。クーラーなしでじっとして耐えられる温度ではありません。

夏休みなどの連休になると家族と一緒に旅行に行き、帰ってくる。「みなさんでどうぞ」とおみやげを配ってくれる人もいますが、そのような恵まれた家庭で暮らしている人は、ひばり園の利用者では少数派です。家族旅行など経験したことのない人が大勢います。中には毎月の生活費がギリギリで旅行などまったく縁のない暮らしをしている人もいます。ひばり園が休みの時は他に行くところがないので家にいるしかありません。クーラーのないワンルームマンションで暮らしている人もそのような一人です。

夏休みが明けてひばり園に出てきたその人に「どうして来た？」と聞くと「うーん、まーねー」と苦笑いをして言葉をごして言いました。言葉なくともその人がしていることは大体想像できます。まず暑い日中は公園の木陰のベンチあたりでぼんやり過ごし、それにあきると冷房のきいたスーパーへでも行って、買い物でもないのでぶらぶらします。しかしそうやって時間を過ごすにも限界があります。どうにも我慢ができません。どうもついに残りわずかな生活費をはたいて、お金を使っている時間が過ぎる所へ行きま。その結果、生活費を使い込み、後でその埋め合わせのために大変な苦労をすることになります。その人のいつものパターンですから大方の筋道は想像できるのです。

もしできることなら、お金がなくても一人で時間が過ぎるように、囲碁、将棋、読書、音楽、絵画など有意義な趣味を持つことができればよいのですが、知的や精神に障害のある人には難しいことです。しかし体の丈夫な人が何もしないでじーとしていたこととは大変つらいことです。だから最後はムダ使いをするこ。実はい、この人ほど極端でなくとも似たような問題を抱えている人は他に何人もいます。毎日、ひばり園で仕事が始ま

るのは午前九時ですから、その少し前に来れば間に合うのですが、八時には出てきて九時まで何もしないで待っている人が七、八人います。一般の会社では考えられないことです。仕事が終わっても何か用事があるふりをしていつまでも居たがりますが、あまり長く居ると職員に注意されるのでしぶしぶ帰ります。普通の工場なら終業のベルが鳴るといつせいにみんな先を争うようにして帰路につくはずですが、少しでも長くひばり園に居たいということは、家に帰るよりひばり園にいる方が楽しいということでしょう。

なぜ、家よりひばり園の方が楽しいのか、そこが問題です。はじめに紹介した人は一人暮らしですが他の人はそれぞれ家族がいて、家に帰っても一人でポツンとしているわけではありません。しかし子供の時ならともかく、ひばり園の利用者のように立派な大人になってもまだ親とか兄弟に面倒を見てもらって生活しているわけですから、なかなか楽しい我が家ということにはならないのです。

家にも何か悪いことをするわけでもないのですが、ただいだけ家族にとってはなんとなく目ざわりで、うとましい存在になるのでしょうか。その雰囲気は障害があっても、いや障害があるからこそ余計に敏感に感じますから、居心地が良いはずがありません。安住できる居場所がないのです。その点、ひばり園に来れば仲間もいるし、うさん臭い目で見られる人はいないし、大いばりで安心していられます。ひばり園にいる方が楽しいといつても、こちらから見ればさほど楽しい時間とはとても思えません。家に居るよりはましという程度のささやかなものでしょう。

「家に帰れば自分で好きなことができる楽しい時間が待っている、さあ、仕事が終わったら早く家にかえろ」とならないければ日々の生活は充実しません。一年間を時間数にすれば8、760時間です。そのうち一日も休まずひばり園に通ってもせいぜい1、950時間です。あとの6、800時間は家に居る時間になります。この大部分の時間を

居心地が悪く、時には家族から小言をいわれながら肩身が狭い思いで過ごすのでは、形は地域生活といいながらも決して充実した人生にはならないでしょう。

自分なりに懸命に充実した時間を求めてお金を使い果たして行き詰る人もいれば、家族のおかげで経済的には心配がなくても、気楽にできる居場所がなくて息を詰めるようにしている人もいます。どちらも私生活の部分で悶々とした日々を送っていることは同じです。

今のそよかぜの態勢で、この人たちに楽しく充実した私生活を送れるようにサポートすることは残念ながら不可能です。新施設を建設して定員を拡大する計画はありますが、それが実現してもそのようなサポートにはとても手が届きません。障害を持つ人の「充実した私生活」は今の福祉水準では夢のような重い課題です。いくら重くてもこれが実現しなければ、この人たちの真の地域生活はありえないことを、私たちは忘れてはならないと思います。